

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第37週)

(令和8年9月7日～令和8年9月13日)

令和8年9月17日

定点報告(上段: 定点当たり／下段: 報告数)、全数報告(報告数)		2026年					2025年 合計	2024年 合計
区 分	疾 病 名	34週	35週	36週	37週	合計		
定点報告	インフルエンザ	1.00	－	2.00	4.00	－	－	－
		3	0	6	12	605	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	1.00	1.67	8.33	4.00	－	－	－
		3	5	25	12	209	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	31	156	309
	咽頭結膜熱	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	9	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	1.00	1.00	1.50	－	－	－
		1	2	2	3	118	243	657
	感染性胃腸炎	0.50	0.50	1.00	0.50	－	－	－
		1	1	2	1	132	430	610
	水痘	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	8	10	6
	手足口病	10.50	4.00	2.50	3.00	－	－	－
		21	8	5	6	131	15	952
	伝染性紅斑	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	－	0.50	0.50	－	－	－	－
		0	1	1	0	20	59	182
	ヘルパンギーナ	1.00	0.50	－	－	－	－	－
		2	1	0	0	16	4	19
	流行性耳下腺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	10	13
	急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1.00	－	－	－	－	－	－
		1	0	0	0	4	16	1
	クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	1.00	－	1.00	1.00	－	－	－
		1	0	1	1	22	42	16
	無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	1.00	－	－	－	－	－	－
		1	0	0	0	8	39	19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	22	56	120
	急性呼吸器感染症(ARI)	42.33	32.33	42.00	51.67	－	－	－
		127	97	126	155	6,252	8849	－
全数報告	結核	1	0	0	0	2	4	1

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザと手足口病の 流行 が見られます。 他、 新型コロナウイルス感染症が増加 しています。
--------	--

インフルエンザ	相双地域及は前週と比較して増加しましたが、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 県内では第35週から流行シーズンに入り、A型が流行しています。県内の多くの地域で報告数が多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。手洗いの徹底や、冷房使用時にも適度な換気を行う等、基本的な感染対策を心がけましょう。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して減少しました。 前週より減少していますが、県内では報告数がやや多い状況です。基本的な感染対策を徹底し、感染に注意しましょう。
手足口病	相双地域は前週と比較して増加しましたが、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 ※警報中 第32週のピーク以後、減少傾向ですが引き続き注意が必要です。手足口病は、ウイルスの感染によって起こる感染症で、夏季において小児を中心に流行しますが、大人も感染します。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、感染後3～5日で口の中、手足に水疱性の発しんが現れます。予防のため、手洗いを徹底し、タオルの共用を避け、適切に排泄物を処理しましょう。
結核	本県で4例報告がありました。 昨年と同様、高齢者や外国出生者が多くを占めている状況です。外国人労働者を多く雇用する事業所や高齢者施設は、既存の感染対策に加え、結核対策としての定期健康診断を実施し、早期発見に努めましょう。
クロイツフェルト・ヤコブ病	本県で1例報告がありました。 クロイツフェルト・ヤコブ病は、脳に異常なプリオン蛋白が沈着することで脳神経細胞に異常が生じ、認知機能等の症状を来すプリオン病の一種です。孤発性(原因不明)、遺伝性(プリオン蛋白遺伝子の変異)、獲得性(プリオン暴露による感染)の3つに分類され、孤発性が7割以上を占めます。

インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症の報告数が増加しています。感染の拡大を防ぐため基本的な感染対策の徹底をお願いします。

- ・咳やくしゃみ等の症状があるときは、マスクを着用したり、鼻や口をティッシュ等で覆うなど、他の人への感染拡大防止に努めましょう。
- ・流水・石けんによる手洗いは手指など体についたウイルスを除去するために有効な方法です。こまめな手洗いに努めましょう。
- ・室内ではこまめに換気しましょう。窓開けによる換気は、対角線上にあるドアや窓を2か所開放すると効果的な換気ができます。
- ・普段と体調が異なる場合には、出勤や登校を控えるなどの体調管理に留意してください。

(参考・引用) 福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第37号